

## Q 主要私道を除雪対象に

## A 緊急時の対応策を研究



▲昨冬、2億円以上の経費を要した除排雪

### Q1

村長は就任以来、行政組織改革に一貫して努め、現在では先進的な自治体として広く社会に滝沢村の知名度を高めたことは賞讃に値するものである。これまでの行政執行の結果、次の事項の効果を伺います。

- ①生活基盤整備について
- ②道路網の整備促進について
- ③文化芸術の振興について

### A1

①効果的な汚水処理施設整備を進めるためには、地域の特性や事業の経済性などを総合的に判断したうえで整備手法を選択していく必要があります。所管課の統一により事業間の調整が容易となり、適正な整備計画の策定と事業の執行が可能となったものと考えます。

②事業開始前に双方向の意見交換を実施することにより、一方的な計画の押し付けではなく、住民にとってもある程度納得行く形で事業に着手することができます。住民の事業に対する理解や満足度の向上、更には「マイロード意識」が湧き、供用開始後の維持管理の面で道路愛護精神が醸成されているものと考えています。

③行政が主体となって実施する今までの施策の展開は一律的なものになつてしまいがちでした。そのため、



西村 繁 議員(新志会)

行政主導型から、住民指導型へと施策の転換を図りました。具体的には、主催を村教育委員会から村芸術文化協会に移行し、前面的協力を頂いています。

村はあくまでもコーディネーターやアドバイザーの立場で、住民が自主的に開催する事業に各種助成や事務、助言など側面的支援を考えています。

### Q2

### A2

私道除雪についての考えは、村では特定の私道を村の管理の対象とすることは困難であると考え除雪や砂利敷などの管理業務を実施していません。この基本原則は今後も維持します。除雪については条例に基づく制度の拡充に努力します。また、緊急時の対応については、今後調査研究していきます。